

2010年7月夏号 No.29

発行:わたなべ美穂後援会

〒818-0125

太宰府市五条 2-2-25-601

Tel&Fax : 092-923-3051

<http://www.watanabemiho.com/>

ほたる



ほたるの季節がやってきました！

雨は必要だとわかっていても、毎日どんよりとした日が続くと、心身ともに鬱陶しくなります。せめて紫陽花やほたるなど雨がよく似合う美しいものを見て心を和ませたいものです。6月議会は終了し、言語などに障がいのある児童のための通級教室開催のための補正予算などが可決されました。また、議員定数が現在の20名から18名に削減され、来年の選挙から実施されます。議会改革も並行して議論が行われており、私は、常任委員会の通年開催や、行政の施策について議会独自で評価できる仕組みづくりなどを提案していきたいと思っています。いずれにしても今後議会が更に活発に活動し、市民に積極的に情報を発信することが大切だと考えます。 —わたなべ美穂—



ペタンクってやっぱり楽しい!!



とても真剣です！

数ミリ単位まで球の位置に拘ります。



5月30日天候に恵まれ、40名以上のご参加を頂き恒例のペタンク大会を開催しました。わたなべ美穂の議会報告の後、優勝グループにはすばらしい(?)賞品が、そして参加者全員にも様々な賞が贈られました。



6月議会報告

今回の一般質問は、全議員 18 名が質問しました。わたなべ美穂は、1、子宮頸がん及び HTLV-1 の感染予防 2、子どもの食育と弁当の日について の二項目の質問を行いました。子宮頸がんはがんの中で唯一ワクチンによって予防ができるがんです。また HTLV-1 は感染経路がはっきりしているので、周知を徹底すれば、感染の拡大を防ぐことができます。次に現在、若い世代の食に対する意識の低下により、子どもたちの食事の内容がひどく偏っている場合があります。日本の自給率の問題を含め、食について考える必要があります。

(質問)

一、子宮頸がんがワクチンによって予防できると、そして非常に死亡率の高いがんを発症する HTLV-1 はその感染の六〇%が母乳による母子感染だということをまずは市民の皆様にも周知するだけでも、感染の拡大を防ぐことができるのではないかと？ HTLV-1 は全国の感染者の約半数が九州に集中している。輸血などを通じて自分が感染しているかどうかを確認することなどの呼びかけチラシを母子手帳の配布時には是非一緒に渡してほしい。

二、現在、給食の残食が全国的な問題になっている。ひじきなどは6割の子どもが残すというデータもある。残食を減らすために子ども好みの好きな油脂の多いメニューを作らなければならないという栄養士の悩みもある。食材を自分で選び、調理するスキルを持たないまま親となつて、子どもに対しても、偏った栄養の食事を与えている若い世代の問題も挙げられている。これは便利さだけを追求し、食材の安全性や栄養バランスのとれた食事、国産のものを食べることの重要性などを見失っていた社会全体の問題でもある。この連鎖を断ち切るための有効な方法として子どもたちが自分で作る「弁当の日」を実践している学校がある。本市でも実践している学校があるが、関係者の反応はどうなっているか？ また本市の食育に対する考え方を伺う。

(回答)

一、子宮頸がんについての予防については、ワクチンの金額が5万円程度と高額であるため、公的負担は難しいと考えている。啓発については今後前向きに検討する。HTLV-1 の啓発チラシは、6月中に県の説明会が開催されるため、その内容を踏まえて早急の実施する。

二、本市の給食の残食は非常に少ない。栄養士を始め、関係者が常に研究を行っている成果だと考えている。ただ、食について今のままではいけないという認識は持っているが、どのような実践が有効かということとは回答は出ていない。提案のあった「弁当の日」は本市で実施している学校は小学校二校、中学校一校の合計三校になっている。それに対する児童や保護者の意見については集約していないため、わからない。



知っておいてください。HTLV-1のこと

現在、このウイルスに感染しているのは、全国に約120万人いるといわれています。その半分の61万人が九州に集中しています。そしてその感染の半分以上が母親の母乳による母子感染です。しかし男女間での感染も30%あり、まずは自分が感染しているかどうかを確認することが必要です。特にこれから子どもが欲しいと考えておられる皆様は是非抗体検査をされることをお勧めします。検査費用は1,000円から2,000円程度ですが、輸血をすれば、無料で検査を行ってくれます。感染者の5%が、治療が困難で平均生存期間13カ月の白血病を発症し、0.3%の方が運動機能をなくしていく疾患を発症されています。正しい知識があれば、夫婦生活も授乳も行うことができます。次世代の子どもたちにこれ以上感染者を増やさないためにも、大人がまず検査を行っていただくことを切に望みます。

議員定数が20名から18名に削減されました

この件については、前回の春号でわたなべ美穂の考え方を述べました。わたなべ美穂はまず議会改革の議論が行われ、その結果で定数は導き出されるということを議会でも訴えてまいりました。議会改革について、昨年1年間全く議論が行われませんでした。担当委員会に対して、議論の再開を何度も申し入れましたが、6月議会ですら一回行われただけです。わたなべ美穂は、議員の活動が市民に見えないということが一番大きな問題だと考えています。定数削減はすでに決定しましたので、今後わたなべ美穂は議会改革の中身が定数削減によって後退することのないよう議会の中で意見を伝えていきます。

市民からの請願・要望

- (1) 郵政民営化の抜本見直しに関する請願 → 継続審査
 - (2) 旧町名の復活を求める請願 → 不採択
 - (3) 未就職新卒者の支援策実施を求める意見書 → 全会一致で採択
- <わたなべ美穂の考え>

請願(1)は、三月議会で継続審査となったものですが、この間委員会では全く調査・研究が行われず、個人の調査・研究結果についても議論されないまま唐突に継続動議が提案されました。これでは議会の怠慢を指摘されても仕方ありません。従って継続に反対しました。

(2)は、その趣旨は理解できますが、紹介議員への質疑で旧町名復活を宰府地区のみを対象にしていること、自治会協議会との協議が行われていないこと、対象地域の住民に対してもどのようなメリット・デメリットがあるのか十分に説明が行われていないことがわかり、この段階で議会が方向性を決定するのは早計だと判断し、不採択に賛成しました。



子どもが台所に立つということ

—わたなべ美穂—

筑後で開催された「環境自治体会議」の分科会で「環境自治体なら弁当の日をやらなくちゃ」に参加しました。そこで九州大学の佐藤先生、西日本新聞の佐藤記者から食に関するお話を聞きました。佐藤記者は「食卓の向こう側」という連載を担当しておられたので、記事を読まれた方も多いと思います。まず、大学生の食事の実態報告が行われました。特徴として 1、野菜を食べない 2、甘いジュースをよく飲む 3、魚を食べない 4、朝食を食べない というものでした。コンビニやファーストフードの店で、好きなものだけを選んで食べているため、上記のような結果を生んでいます。誰も彼らに栄養のバランスや安全な食材について教えていないのです。更にお給料をもらえるようになると、三食とも外食で台所を使っただけという社会人も増えています。そして離乳食にヨーグルトやゼリーばかりを与えたり、自分たちが朝食を摂らないため、子どもにも食べさせなかったり、食べさせても菓子パンやお饅頭という親が増えています。北九州市で調査したところ、一番好きな食べ物を「ラーメン」と回答する子どもが増えているそうです。つまり、インスタントか外食ということです。このような食の在り方に危機感を持った香川県の校長先生が始められたのが、子どもが自分で作る「弁当の日」です。自分で買い物をし、調理することで食材について考えたり、作る人の気持ちをくみ取ることができるようになります。親は絶対に手出し口出しをしないのがルールですから、たまに失敗もありますが、子どもたちは完食するそうです。実施した学校では、給食の残食が劇的に減った学校もあります。なぜ国産の食材が高いのか、どうすれば弁当の彩りをよくできるかなどを考える中で、親との会話が増え、栄養のバランスを自然に考えます。「弁当の日」はお父さんやお母さんのお弁当も子どもが作るケースも多いそうです。弁当の日が実施されていない学校の児童でも、ご家庭で週に一度だけ子どもが作る「味噌汁の日」を実践しているご両親もいらっしゃいます。自分のことは自分でできるようになることが自立だとしたら、何より大切な「食」に関して子どもにきちんと教えておく、ということも必要だと強く感じました。今日本人が1日にお茶碗もう一杯お米を食べると、日本の食料自給率は8%上がり、60万ヘクタールの水田がよみがえるそうです。

後援会入会のお誘い

年会費：一口 1000 円

郵便局：記号 17410

名 義：渡辺美穂後援会 会計 渡辺美穂子

番 号：69616971

会計年度は1月～12月で、主にほたるの印刷代・送付代、議会報告会に使っています。

—一口でも二口でもよろしくお願ひします

